第 3 回　田辺市都市計画マスタープラン策定委員会
会　議　録

日時：平成 21 年 3 月 27 日（金）
14 時 00 分から 16 時 00 分まで
場所：田辺市役所　本庁4階　第1委員会室

1．開会

(1) 田辺市建設部　より挨拶

田辺市建設部	・本日は、第 3 回　田辺市都市計画マスタープラン策定委員会に、ご参集下さいまして、誠にありがとうございます。 ・今回は、前回からの協議を踏まえた「都市計画区域の設定と課題の設定」とともに、「まちづくりのテーマや将来都市構造」、「まちづくりの方針の考え方」等について、ご議論していただくことを考えております。 ・皆様の活発な議論をいただくことをお願いし、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

(2) 委員長あいさつ

委員長	・みなさんの活発な議論を頂ければと思います。

2．議事

(1) 策定委員会（第 2 回）の内容について

《資料》　第 2 回　田辺市都市計画マスタープラン策定委員会　会議録

《質疑応答》
－特になし－

(2) 策定委員会（第 3 回）資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会（第 3 回）資料
Ⅰ.都市計画区域の設定と課題の設定
Ⅱ.まちづくりのテーマと将来都市構造

《質疑応答》

委員	・都市計画税のことが気になる。以前の会議では、都市計画税は税務サイドで決めることとは聞いているが、新たに都市計画区域に入る区域は、結果的には、税徴収区域になることと思う。この委員会で、実質的な徴収区域を決めることは、少し酷なことだと思う。
事務局	・委員が言われたとおりで、都市計画区域から、都市計画税を徴収するという基本的な方針は変わらないと思われる。 ・都市計画マスタープランとして都市計画区域の方針を定めるが、具体的な都市計画区域の見直し作業は、平成 22 年以降に行うこととしており、その中で様々な議論をしていく予定である。
委員	・この会議において、税徴収区域と都市計画区域は同じものとした前提のもと、それなりの責任をもって、検討及び判断すべきではなかったかと思う。
委員長	・税徴収区域については非常に難しい問題にはなるが、事務局から平成 22 年以降にじっくりと時間をかけて議論を行うという説明がありましたので、ひとつの意見として留めておくこととする。

委員	・まちづくりの理念で、「インターチェンジの供用開始により、益々の発展が期待される」という表現があるが、交通の通過点になり衰退の要因になる可能性もある。インターチェンジの供用開始を契機として、積極的なまちづくりの取り組みを行うなどの主体的な強い意志を記載する必要があると思う。
委員	・委員が言われたように、白浜にインターチェンジができれば、ストロー現象は懸念される問題だと思う。 ・構造図に図示されているのは田辺市の施設のみである。県でも検討すべきことだが、隣接の都市との関連を整理する必要があると思う。
委員	・南紀田辺 IC からの市内へのアクセス計画のようなものがあれば、教えて頂きたい。県外から扇ケ浜の海水浴場に来て頂くためのルートなど、観光協会として困る場面もある。
事務局	・前の図面で説明します。インターチェンジから扇ケ浜までのルートとしては、2 つ程度あると考えられる。切戸橋～銀座商店街～整備中の海蔵寺商店街～大通りを通るルートと、インターチェンジからそのまま直進できる道路（明洋団地古町線）を整備中であり、御所谷地区で整備した道路を通り、田辺大橋に続くルートである。南紀田辺 IC の特徴としては、直接、バイパスに接続しており、バイパスから市内や郊外へのアクセスが良い道路形態という点である。
委員	・言われたルートが完成するまでには少し時間がかかると思う。道路標識の設置などを考えるべきだと思う。
事務局	・先ほど事務局から説明した 2 つ目のルートは、インターチェンジから最短で市街地にアクセスできるルートである。現在、明洋団地古町線として整備中であり、概ねの整備は済んでおり、2 年後くらいには部分供用できると思われる。そのルートができれば、市街地へのアクセスについて迷うことはなくなると思う。
委員	・医療拠点について、2 箇所を位置づけているが、大災害の発生により 2 箇所の受け入れの許容値を超えた場合のバックアップなどは考えているのか。
事務局	・都市計画マスタープランとして、防災拠点となる得る 2 つの大きな病院を位置づけている。大災害などによる医療体制については、市の地域防災計画などで位置づけており、都市計画マスタープランでは、詳細な部分までは言及しないこととしている。市としては、都市計画マスタープランと地域防災計画などと連携を図りながら、考えていくことになる。
委員	・市街地には学校がまとまっているが、教育拠点として掲げなかったのはなぜか。子どもが集まる場所は、都市の活力といった視点でも重要な役割を果たすと思う。 ・コンパクトシティと言っておきながら、歴史文化拠点として熊野古道が位置づけられるのは、唐突なような気がする。市街地には、南方熊楠顕彰館などの歴史文化施設がある。 ・歴史文化として、旧田辺城下街をどう考えているのか。少なくとも田辺城水門などが残っている。 ・自然環境軸として、日高川が位置づけられていない。
委員長	・拠点施設については、ポイントを絞り込んだり、紙面の関係で入れることができなかった箇所もあるかと思われる。
事務局	・学校などの教育関係については、事務局として再考させて頂きたい。 ・南方熊楠顕彰館、田辺城水門などの意見については、都市構造ではまちの全体像を示すものであり、代表的な施設を位置づけている。ご指摘の施設など詳細ものについては、地域別構想の中で議論することを考えている。 ・日高川については、自然環境軸に位置づける方向で再整理する。

委員	・天神崎には、駐車場が少ないと思われる。天神崎は、今後も注目されるべき名勝だと思う。 ・コンパクトシティを掲げるのであれば、拠点毎に貸し自転車を準備して、サイクルロードなどを整備すれば面白いと思うがいかがか。
事務局	・良好な自然環境を有する天神崎を周回する道路幅員は狭く、このことが都市化及び開発の波から天神崎を守ることとなったと思う。都市施設の整備は開発の呼び水となることにも注意が必要だと思うが、駐車場の整備については、あまり議論されて来なかった。 ・サイクルロードについては、観光戦略として観光の関係機関との連携を図りながら、議論すべきものだと思う。1 つのアイディアとして、今後、検討していきたいと思う。
委員	・先ほど税の話は、皆が納得いくやり方で進めるべきだと思う。 ・「コンパクト」という言葉が残っているのは、疑問に思う。また、まちづくりの理念については、本計画の重要な部分であり、文章をもう少し考えるべきと思う。
委員	・三四六公園が防災拠点になっているが、今後の国体開催も見据えてのものだと思うが、事務局の考えを聞きたい。町内会組織としても、県へ防災拠点としての位置づけを要望している。
事務局	・ご指摘のとおり、三四六公園周辺を整備し、国体会場にすることは、県と市では調整済みである。また、インターチェンジから非常に近いため、当該エリアを陸路での防災拠点と位置付けたい。なお、文里港は海路での防災拠点である。
委員	・予期せぬ大災害を起こる可能性もあり、文里港だけでは心配である。他にも防災を意識した港の整備が必要だと思う。
委員長	・先ほどのまちづくりの理念の文章ついて、具体的なイメージなどはあるか。
委員	・よく聞く言葉が並んでおり、田辺らしさが足りない。市民に響く文章にすべきだと思う。 ・「コンパクトで持続可能な集約型都市構造を構築し、～」の文言を「持続可能な集約型都市構造を構築し、～」に変更した方がいいと思う。

(3) 策定委員会 (第 3 回) 資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会 (第 3 回) 資料

III.まちづくりの方針と考え方

《質疑応答》

委員	・中心市街地活性化基本計画が、国に認定されたと聞いている。都市計画マスタープランとの関連性も強いので、次回の会議に、基本計画に関わる資料を提供してほしい。
委員長	・大きなニュースである。国からの支援が受けられる。確かに都市マスとの関連性が強く、全ての資料提示は難しいかもしれないが、中心市街地活性化の取り組みなどは、知っておくべきだと思う。
委員	・うまくまとまり過ぎていて、田辺の特徴がでていない。課題から方針までの全てを読むと解るが、まちづくりの方針のみを見ると、例えば「工業・商業などの産業の活性化」など個性がなく、田辺らしさを表現すべきだと思う。報告書では方針のみを読まれる場合もあり、その場合、田辺市の都市計画マスタープランとしては物足りないと感じる。感性の部分もあり、個別の修正点は説明しにくいが、田辺の個性を打ち出してほしい。
議長	・まちづくりには様々な課題があり、それを受けた理念や方針であるため、様々な内容を網羅すべきということは解る。しかし、理念や方針のみにも田辺らしさなど個性を出るような表現に変更すべきだとの意見だと思う。
委員	・まちづくりの基本概念はテーマであり、市民のまちづくりに対するイメ

	ージや気運の盛り上がりにつながる表現にすべきだと思う。 ・県でも同じような計画を多く策定してきたかも知れないが、今後のマスタープランは、一般的な言葉ではなく地域を特徴づける言葉など、市民が共感できる表現にする必要があると思う。
委員	・同様の感想を持っており、少々、歪で不器用でもいいので、田辺らしさを前面に出したマスタープランとすべきだと思う。
委員	・少し話は変わるが、コンパクトシティや集約型都市構造を掲げるなら、中心市街地の商店街などがもっとがんばらないといけないと思う。若者が郊外店に行くことは解るし、商店街の意識改革やソフト施策の実施について、行政の支援も含め相当がんばらないと駄目だと思う。そうでないと、コンパクトシティがうまく機能しないように思う。
委員	・まちの活性化には商店街は重要だと思う。商店主の高齢化などの問題もあり大変だと思うが、なんとかしないといけないと思う。
委員	・公共交通について、財政難から郊外の路線バスへの助成を削減する市町が多く、路線バスの廃止のケースもあるようだが、田辺市でも同じようなことを行う予定なのか。普段の利用客は少ないと思うが、高齢者など交通弱者には、必要なものだと思う。
事務局	・市ではバスなどの公共交通については、別組織を立ち上げ協議を進めている。都市計画マスタープランでは、道路の整備などバス路線の整備を位置づけるなど、公共交通の計画との連携を図りたいと考えている。
委員	・まちの規模はちょうどいい。自転車の意見があったが、いいアイディアと思う。自転車道の整備は地元の意見調整が大変だとは思うが、一度、市で考えられたらいいと思う。 ・田辺では公共下水道の整備ができていない。国の考えは新規整備よりも整備されたものを更新という段階になっている。補助金があるうちに、下水道整備を行うべきだと思う。現状では、汚水対策が不十分な状態であり、将来的には田辺市にとって、大きなマイナスになるような気がする。市町村型浄化槽事業という手法もある。
委員	・地方都市では、一定の郊外開発は受け入れるべきであり、ロードサイド施設を便利な施設としてプラスに考えることも必要である。一方で、まちの顔である中心市街地の活性化も必要である。要するに、市民や来街者にとって便利なまちをどう構築するかだと思う。
委員長	・国としては、法改正によりロードサイド施設を抑制する動きにはあるが、抑制は一定規模以上のものであるため、今後もロードサイド施設が立地することを前提にした意見だと思う。 ・高松市の場合は、中心市街地の活性化とロードサイド施設の立地とともに活発である。まちの顔（個性）をどのように位置づけるかが、今後のまちづくりの論点になるのだと思う。
事務局	・公共下水道に関しては、国の地方分権改革がまとまらないと、公共下水道の整備をスタートしないこととしている。現在は、合併浄化槽及び雨水幹線の整備充実を進めている。また、現在、市の財政が厳しいということの一因もある。
委員長	・まだ、意見があるかもしれないが、その場合は、個別でも良いので、事務局までお願いします。 ・まちづくりの理念については、事務局で修正し、次回協議のできるようにお願いします。

3．閉会

事務局より挨拶

以上